

県調査研究委員会 研修会

< 広島県人権教育指導者養成研修会（東部会場）と兼ねて実施 >

- 1 目的 文部科学省委託事業「人権教育推進のための調査研究事業」の推進のために、学習意欲を高める参加体験型学習プログラムの開発及び普及方策についての研修を行い、事業のより一層の充実を図る。
- 2 日時 平成21年11月20日（金）
- 3 会場 尾道市しまなみ交流館
- 4 参加者 調査研究委員会委員，各市町生涯学習・社会教育関係職員，学校教育関係職員，社会教育関係委員，学校教職員等（参加者77名）
- 5 内容 人権感覚を高める学習内容及び方法について
参加体験型学習（ワークショップ）の実際について
 - (1) 講話「効果的な人権教育を推進するために」
講師 広島県教育委員会指導第三課職員
 - (2) 講話・演習「じんけん，あなたの第一歩」
講師・ファシリテーター じんけん楽習塾 大谷 眞砂子



6 学習展開

学習テーマ	参加体験型を取り入れた，効果的な人権教育の学習プログラム
学習目標	参加体験型学習の特徴，プログラムの組み立て方を学ぶ。 参加体験型の手法を実際に経験し，必要性和留意点に気づく。

<p>準備物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A 4用紙 一人4枚 ・ 講話資料，レジユメ 一人1部 ・ 名札，名札用紙 一人1セット ・ アンケート記入用紙 一人1枚 ・ A 3用紙 一グループ1枚 ・ マーカー ・ 色鉛筆 	<p>会場図（各テーブル7名）</p>
--	---------------------

流れ	時間	学習活動	学習支援者	詳細のページ
導入	10分	はじめに ・ 本日の学習の目的及びプログラムを確認		17
展開	30分	講話「効果的な人権教育を推進するために」 ・ 人権教育の現状 ・ 参加体験型学習の特徴，有効性，危険性 ・ 学習プログラム企画立案の視点	県教委職員	18
	80分	講話・演習（アクティビティ） ・ 活動のルール ・ アイスブレイク ・ 今日学びたいことをグループで協議 ・ 自尊感情について	講師・ファシリテーター	21
		休憩		
	160分	講話・演習（アクティビティ） ・ 決めつけ，固定価値観の危険性，打破（後出し負けじゃんけん等） ・ 情報について考える（ヒントシートによる人物の描写） 先入観の存在 複数の情報を吟味し，正しい情報を得ることが重要	講師・ファシリテーター	24
ふりかえり まとめ	10分	講話 ・ 正しい情報の重要性	講師・ファシリテーター	25

7 プログラムの詳細

効果的な人権教育を推進するために～参加体験型学習を取り入れた人権教育～

ねらい

参加体験型学習の特徴，必要性，危険性について考えてみましょう。
参加体験型を取り入れた学習プログラムについて考えてみましょう。
参加体験型の手法を体験してみましょう。

1 はじめに 今日の学習の目的と進め方

- (1) 学習目的の確認
- (2) 学習内容の確認

2 講 話 効果的な人権教育を推進するために

活動の ねらい

人権教育における参加体験型学習の特徴や必要性，危険性について考えるとともに，効果的な学習プログラムの組み立て方について，講話を聴いて理解します。

準備物 説明資料

【講話概要】

人権教育を行う上で，講義形式だけでは，「感性」や「人権感覚」を十分に育むことはできません。学習者自身がその知識や体験に基づき，お互いの気づきや考えを共有しながら能動的に学ぶ参加体験型学習は大変効果的であり，重要なことです。

実際に参加体験型学習を進めるにあたり，「参加しやすい雰囲気づくり」「多様性の承認」「学習者の経験，思いの尊重」など，大切にすることは多々ありますが，なかでも，「学習のふりかえり」は参加者の気づきを促し，実践（現実の行動）につなげる上でも重要です。

一方で，参加体験型学習には，「単なるゲームで終わってしまう」「進行役が価値観を押しつける」「進行役の意思に依存する傾向があり，参加者の自由な意見交換が保障されない場合がある」等の危険性もあります。

参加体験型学習の内容・プログラムを考える際には，これらの内容を踏まえ，「参加者の気づきや経験を大切に」「学習全体の見通しをもって」「地域，職場の実情にあったプログラムの組み合わせ」を行うことが大切です。

講話の詳細については，次ページからの資料をご覧ください。

効果的な人権教育を 推進するために

参加体験型学習を取り入れた人権教育

広島県教育委員会指導第三課

人権教育の現状

学校教育

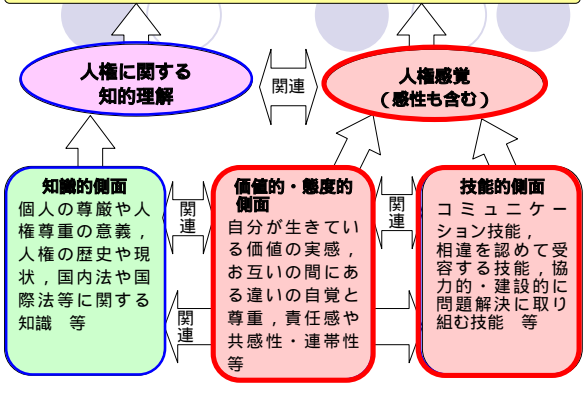
- ・ 知的理解にとどまり、人権感覚が十分身に付いていないなど指導方法の問題がある。
- ・ 学校における人権教育に関する取組みの一層の改善・充実が必要。
(基本計画・平成14年3月)

社会教育

- ・ 知識伝達型の講義形式の学習に偏りがち
(基本計画・平成14年3月)
- ・ **学習参加者の意欲が減退している。**
(1号答申・平成11年7月)

人権教育に係る学習機会の充実、意欲を高める参加体験型の学習プログラムの開発が必要

自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度



人権感覚を育成する指導方法

- 『協力的な学習』：協力しつつ共同で進める学習
- 『参加的な学習』：学習の課題の発見や学習の内容の選択等も含む領域に、主体的に参加することを基本的要素とする学習
- 『体験的な学習』：参加体験型学習という名の様々な手法

第三次とりまとめ

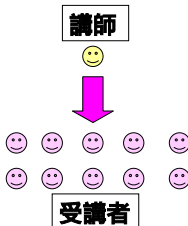
参加型学習

知識伝達型である講義形式の学習形態に対し、学習者自らがその知識や体験に基づき、お互いの**気づき**や考えを共有しながら学習活動に能動的に参加する学習形態。

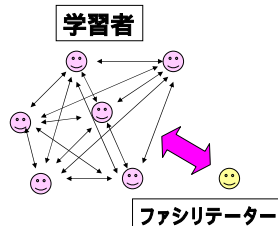
人権教育指導者・担当者のための学習プログラム集

講義型と参加型学習

講義型



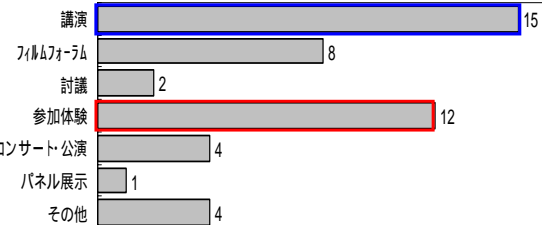
参加型学習



公民館等の社会教育施設における学習機会の提供

学習方法

(数値は市町数(複数回答))



実施回数

2,242回(延)

~平成21年度 人権教育調査指導事業のまとめ~

平成20年度人権教育指導者養成研修会から

参加者アンケートより

Q:参加体験型の講話・演習は参考になったか。

	A	B	計
ア 大変参考になった	55	27	82
イ 参考になった	32	22	54
ウ 参考にならなかった	1	0	1
エ よ(わから)ない	1	0	1
オ 無回答	1	3	4
			142

A:人権に関する業務を担当している。
B:人権に関する業務を担当していない。

参加者の声・・・

参加体験型のメリットとデメリットについて理論と実践で学べたため理解が深まった。(実際に参加体験型を演習を通して研修できたので分かりやすかった。)

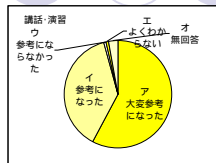
「傾聴」と「対話」の重要性が理解できたので、今後活用していきたい。

学校で人権教育を進めていく上で参考になった。(学校現場でいかに具体的な内容だった。)

参加型に対する苦手意識があったが、それはこれまで体験したものが単に活動の段階であわってしまっていたからということに気づいた。

参加体験型学習を取り入れたいのだが、具体的な手法・学習内容がよく分からない。

参加体験型学習の講師、ファシリテーターについての情報が無い。



参加体験型学習を進めるにあたって

基本は学習者の特質を考え、この点を大切に！

学習者(参加者)の過去の経験やこれまで蓄積してきたことを大切に。

参加しやすい会場づくり(小集団、円を基本とした組み合わせ等)

話しやすい雰囲気をつくるアイスブレイク

多様性の承認

ふりかえりによる学習の深化

～宇都宮大学 廣瀬隆人教授「参加型学習の有効性と危険性」～

ワークショップ(参加体験型学習)はふりかえりが命！

ふりかえりの効果

お互いの経験の中に価値を見だし、行動、考え方を修正、変更する。

実践を再評価し、考え方、ふるまい、流れ、見方を修正、変更する。

次の実践で試行する。具体的にやってみる。

再度ふりかえる。



実践が変わる！

～宇都宮大学 廣瀬隆人教授「参加型学習の有効性と危険性」～

危ない！参加体験型学習にはこんな危険性が・・・

楽しさを重視するあまり、単なるゲームに終わってしまう。全体の流れを考えるとなく、講義だけではつまらないからという理由だけで取り入れる。

権威主義的な、強制的な参加の押しつけ。進行役が結論を指示誘導して、参加者の考えを無視する。

進行役の意思や倫理観に依存する傾向があり、参加者の自由な意見交換が必ずしも保障されない場合がある。ストレス解消のガス抜きとして利用するだけ。

現実の行動につながらない。

～宇都宮大学 廣瀬隆人教授「参加型学習の有効性と危険性」～

参加体験型学習を取り入れた学習プログラム企画立案の視点！

学びの主体として参加できる「気づき」や「経験」「ふりかえり」を大切に・・・

いろいろなアクティビティも十分な「ふりかえり」なくしては行動変容にはつながらない。

学習したあとのことを見通す。

学習者のその後の行動変容を期待して行われるのが人権教育。学習の継続や行動変容につながるためには、暮らしや生活の中で展開される具体的なことから題材とすること。

講義・講話も大切、参加体験型だけが良いのではない！

自らの経験をエピソードとして語り、ふりかえり、そこから等身大の自分の姿を語ってもらえるような素晴らしい講義に接することも大切。

ファシリテーションは「技」よりも「心」！

強制的な結論を指示誘導して、参加者の考えを無視した上で、「この結論は皆さんが考えたものです。」というファシリテーター。

宇都宮大学 廣瀬教授
～人権啓発指導者養成研修会での講義
「参加型学習の有効性と危険性」より～

効果的な人権教育を推進するために

自分の人権を守り，他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度

参加者自身に「気づき」をもたらす参加体験型学習の活用

参加体験型学習，講演形式など，様々な学習方法を効果的に組み立てた学習プログラム

「人権教育指導者・担当者のための学習プログラム集」をはじめとした人権教育に関する情報については，ホームページ「ホットライン教育ひろしま」の「人権尊重の心を育てる教育のページ」をご覧ください。

http://www.pref.hiroshima.lg.jp/kyouiku/hotline/16_jinken/index.html

活動の
ねらい

講話や活動(アクティビティ)を通して，参加体験型学習の手法についての理解を深めるとともに，「固定観念の打破」や「正しい情報の把握の重要性」等について学びます。

準備物

講師資料
色鉛筆
A3用紙

活動の進め方

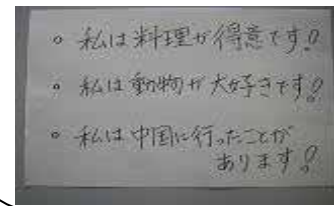
- 1 「活動のルール」についての説明を聞きます。

【うその自己紹介】(アイスブレイク)

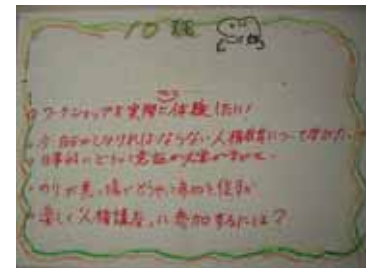
- 2 A4用紙に3つの自己紹介文を書きます。そのうち1つを「うそ」の紹介文にします。
- 3 グループ内で自己紹介をします。(1人1分程度)その後，「うそ」を当ててもらいます。
- 4 各グループで，今日の研修で学びたいことを出し合い，A3用紙一枚にまとめます。
- 5 A3用紙は壁にはり，休憩時間等を使い，互に他のグループのまとめを見ます。

自分に関する「本当」と「うそ」を書こうとすると，これまで意識していなかった自分の姿が見えたり，相手の「うそ」を探そうとして一生懸命相手のことを考えたりしていることに気づきます。

(自他の理解)



学習のスタートにあたり
動機づけを行います。



【説明内容】

- 1 活動のルール

活動する場を「安全な場」とするためのルールづくりが必要である。

〔確認したルール〕

参加・・・どんな参加の仕方でも構わない。

尊重・・・自分のことも相手のことも尊重する。I(アイ)メッセージで自分を主語にする。

守秘・・・会場内で出た個人的な話題は外に持ち出さない。

- 2 なぜ自己紹介の中に「うそ」を入れたのか。

- ・うそをつくという遊び心。
- ・うそは，願望，悲しみなど重い内容をもっている場合もある。
- ・どれがうそかと，相手の話を真剣に聞く。人を深く知ろうとする態度につながる。

活動の進め方

- 1 ワークシート「わたしの分子」の8つの の中に、自分に関することを書きます。そしてそれについて、「好き」「きれい」「どちらでもない。」のいずれかに をつけます。

例：「男です」「職業は です」「眼鏡をかけています」「趣味は です」等々

- 2 アクティビティ（「わたしの分子」）について説明を聞きます。その後、自分自身でふりかえりを行います。

- 3 ここまでの学習について、グループ内で気づきや感想を出し合います。

の中に何を書いてよいか戸惑う参加者もいると思われませんが、強制せずにあくまでも思いつく範囲で構わないことを伝えます。（参加の自由）

このワークを行うことにより、自分が自分をどう見ているかということに気づきます。

自分自身を見つめるためのワークでもあるため、ふりかえりは全体では行わず、個人で行います。

【説明内容】

- 1 アクティビティ（「わたしの分子」）の意義について
 - ・自分について何を思いついたのかということに注目する。
 - ・自分が自分をどう見ているかということを改めて気づくことができる。
 - ・日本の子どもは、他国の子どもと比較して自尊感情が低いというデータの紹介。（おとなにもあてはまるのでは？）
 - ・おとなも子どもも、いい所はしっかり認めてもらい、誉めてもらうことが必要。
 - ・シートの に書いた内容は、すべて自分であり、自分はかけがえのない存在であることに気づく。

< 講師提示データ >

（次の2項目に「よくあてはまる」と回答した生徒の割合）

	日本	アメリカ	中国
私は自分に大体満足している。	9.4%	53.5%	24.3%
私は人並みの能力がある。	15.6%	56.5%	49.3%

日本の子どもは自尊感情が低い。

（財）日本青少年研究所 実施

～「中学生の生活意識に関する調査」～

調査実施時期：平成13年10月～平成14年1月

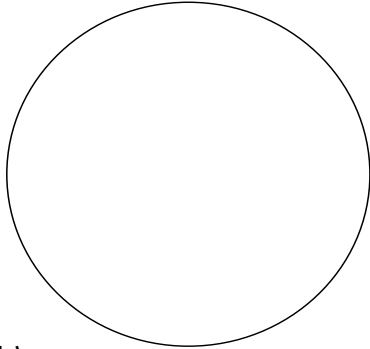
調査地域：全国10地点12校

調査対象：中学1年生～3年生

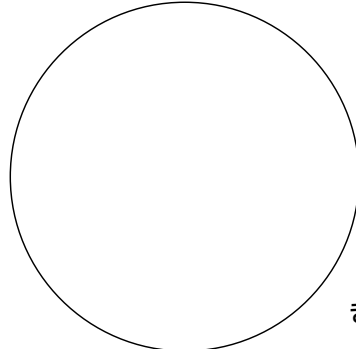
ワークシートについては、次ページの資料をご覧ください。

わたしの分子

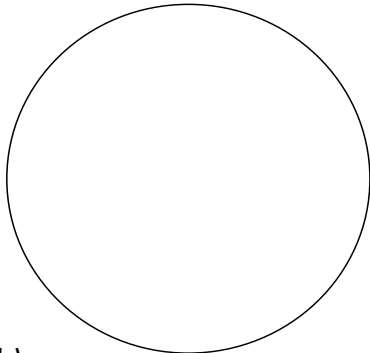
なまえ _____



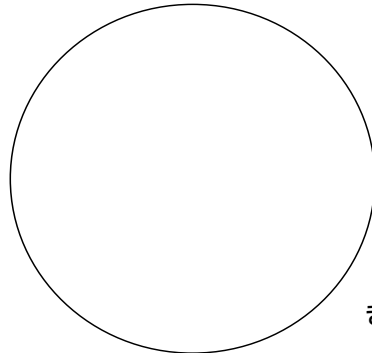
すき
きらい
どちらとも感じない



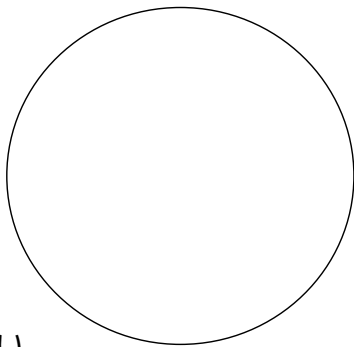
すき
きらい
どちらとも感じない



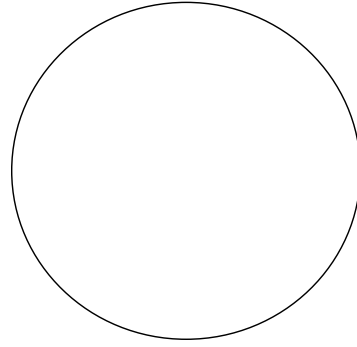
すき
きらい
どちらとも感じない



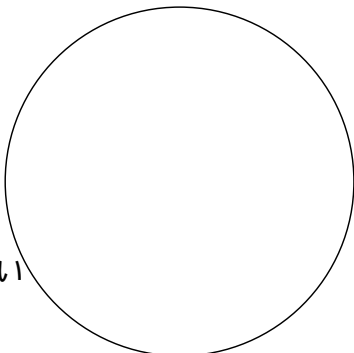
すき
きらい
どちらとも感じない



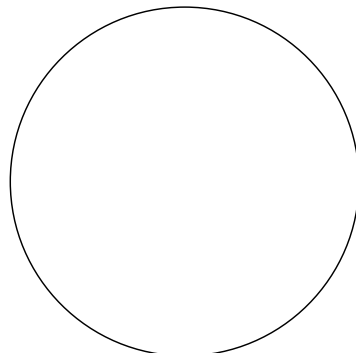
すき
きらい
どちらとも感じない



すき
きらい
どちらとも感じない



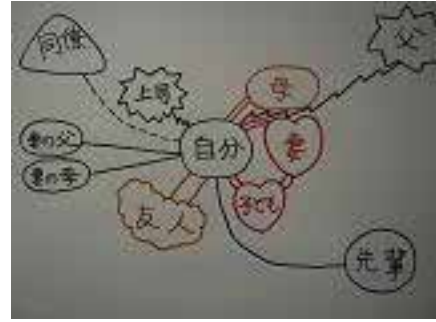
すき
きらい
どちらとも感じない



すき
きらい
どちらとも感じない

活動の進め方

- 1 A 3用紙に自分と自分を取り巻く10人の人との関係図を描きます。
形と色と距離で、自分と10人の人との現在の関係を示します。
まず自分を書き、次に、相手を記号や色で表します。
同様に、自分が子どもの頃の関係も、別の紙に書きます。
- 2 自分がどのような人を描いたか、グループ内で出し合います。
具体的な名前は言わなくてもよい。
お互いの関係図を紹介し、その後、感想を出し合います。
- 3 講師の話の聞くとともに、ふりかえり、わかちあいを行います。



普段改めて考えることのない自分の人間関係を図で表すことにより、多くの気づきや感想が生まれます。さらにそれをグループ内で出し合うことにより、様々な思いや考えに気づき、自分を深く見つめることにつながります。



【説明内容】

- 1 アクティビティ(「私と10人の人」)の意義について
 - ・現在と過去の自分の人間関係を振り返り、その違いや関連性に気づく。
 - ・関係がうまくいっていない人も、実は自分にとって大事な関係の中に入っている。
 - ・他の人の話を聞くことにより、様々な考えに気づき、自分の思いがより深まる。
- 2 ふりかえり、わかちあいで出された感想
 - ・人間関係の変化や家庭のあり方等について共通点が見出され、盛り上がった。
 - ・自分の人生を振り返るきっかけとなった。
 - ・関係図を描くことにより、マイナス面も自分の人生の肥やしになっていることに気づいた。
 - ・グループのメンバーから必ずコメントをもらえるので嬉しかった。
 - ・子どもや家族に対する思いを改めて感じ、深めることができた。

活動の進め方

【情報について考える】

- 1 ファシリテーターがヒントシートを読み上げ、それをもとにグループで男の子と女の子の絵を描きます。
- 2 互いに見せ合い、どこが違うか確認します。
- 3 各グループから一つだけファシリテーターに質問をして、それをもとに相談し、グループの絵を決めます。
- 4 正解の絵を見て、グループ内で感想や気づきを出し合い、ふりかえりシートに記入します。その内容を全体へ発表します。
- 5 講師のまとめを聞きます。

グループ内でメンバーごとに描き方のパターンを変えます。

パターン : 読み上げられたヒントをメモしても良い。

パターン : 読み上げられたヒントをメモしてはいけない。

パターン : ヒントシート A を見ながら。

パターン : ヒントシート B を見ながら。

同じ情報でも、人によってとらえ方が違うことを実感するようにします。絵を使うことで、視覚的に体感することができます。

【説明内容】

- 1 アクティビティ(「男の子女の子」)の意義について
 - ・ 同じ情報でも、受け手によってとらえ方が違う。
 - ・ 情報量によってもとらえ方が違う。
 - ・ 自分の中にある固定観念に気づく。
 - ・ 一方通行ではなく、相互のコミュニケーションが大切。(聴き合うことで分かり合える。)
 - ・ 複数の情報から吟味し、正しい情報を得ることが大切。
- 2 ふりかえり、わかちあいで出された感想
 - ・ 自分の生活、体験をもとに絵を描いている。
 - ・ 先入観で描いているため、同じ情報でも違う絵を描いてしまう。
 - ・ 生活上の固定観念によってとらえてしまう。
 - ・ 感情を伝えるのは難しい。
 - ・ 好き嫌いの感情が入ると伝わりにくくなる。
 - ・ 情報は 100% 正確に伝わらないことを前提にコミュニケーションをとることが必要。



ワークシート等については、次ページからの資料をご覧ください。

「同じ情報～それぞれの受けとめかた？」

ヒントシート A

1	二人の背の高さは違います
2	女の子は手に傘を持っています
3	男の子は長靴をはいています
4	女の子は怒っています
5	男の子は笑っています
6	女の子はスカートが嫌いです
7	二人はおそろいのシャツを着ています
8	シャツの柄は斜めのしま模様です
9	女の子のほうが背が高いです

「同じ情報～それぞれの受けとめかた？」

ヒントシート B

1	二人の背の高さは違います
2	女の子は手に傘を持っています
3	男の子は長靴をはいています
4	女の子は怒っています
5	男の子は笑っています
6	女の子はスカートが嫌いです
7	二人はおそろいのシャツを着ています
8	シャツの柄は斜めのしま模様です
9	男の子の髪は長いです

「同じ情報、～それぞれの受けとめかた？」

話し合い・振り返りシート

グループの人の絵をみてどう感じましたか？

グループの人で共通していた誤りはどこですか。

それは、なぜだと思えますか。

「怒りの表情」や「スカートが嫌い」という感情（気持）に関する情報をどのように考えましたか。

情報を、より正確に発信・受信するために必要なことは何でしょう。

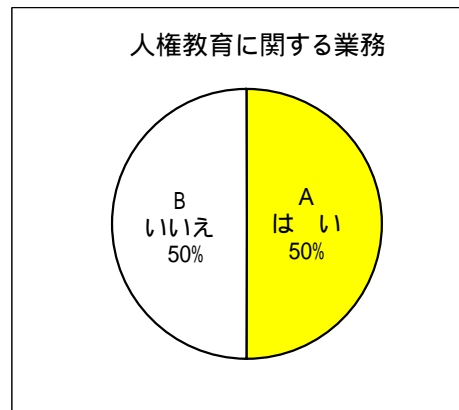
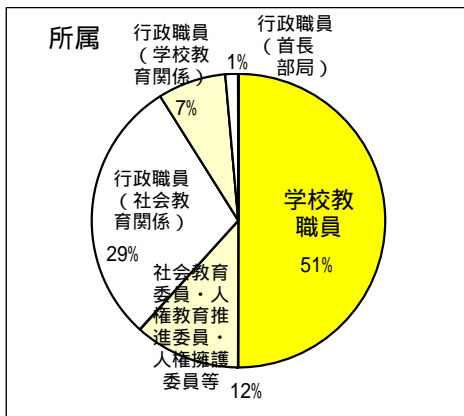
参加者アンケート まとめ

- 問1 所属は
問2 現在、人権に関する学習を企画・運営する業務に携わっていますか。

問1 (所属)				問2	
学校教職員	34	学校教職員	34	はい	16
				いいえ	18
社会教育委員・人権教育推進委員・人権擁護委員等	8	社会教育委員・人権教育推進委員・人権擁護委員等	8	はい	4
				いいえ	4
行政関係	26	社会教育関係	20	はい	13
				いいえ	7
		学校教育関係	5	はい	0
				いいえ	5
		首長部局	1	はい	1
				いいえ	0
その他		その他		はい	0
				いいえ	0
アンケート総数	68			はい	34
				いいえ	34

参加者数 (事務局除く)	71名
-----------------	-----

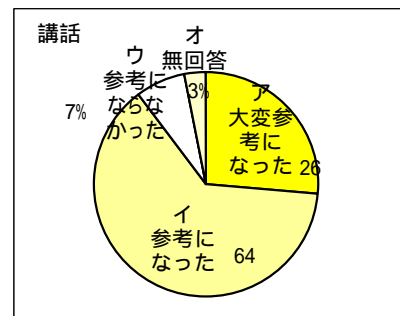
A
B



問3 研修内容についてお尋ねします。

(1) 講話

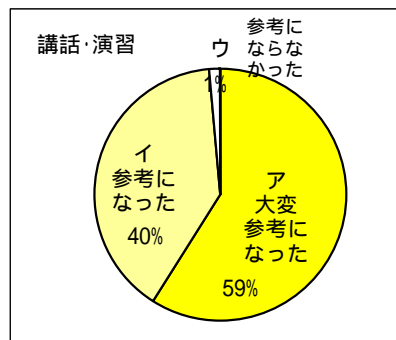
	A	B	計
ア 大変参考になった	9	9	18
イ 参考になった	19	24	43
ウ 参考にならなかった	4	1	5
エ よくわからない			0
オ 無回答	2		2
			68



- ア 人権感覚を育成するためには言葉だけの理解ではなく、活動し、経験を通して学ぶことが大切であることが分かった。
参加型学習の必要性を感じた。
- イ 人権感覚を育てるには、価値的側面と技能的側面があり、それらの資質能力を育てていくことが重要であることが分かった。
県の指針、方向性の具体的な内容を聞くことができ、参考になった。
参加体験型学習の重要性をグラフやデータ等から知ることができた。
- ウ 学校教育の中に取り入れていくためのカリキュラムの話題等について提供してほしい。

(2) 講話・演習

	A	B	計
ア 大変参考になった	19	21	40
イ 参考になった	14	13	27
ウ 参考にならなかった		1	1
エ よくわからない			0
オ 無回答			0
			68



- ア 演習の雰囲気良かった。講師の言われた「一人一人違う人間であり、感じ方も様々であることを前提として人とのつながりを築くことが大切」ということを改めて認識した。
参加体験型の手法により全員が参加でき、主体的な研修になっていた。
思いこみや先入観、決めつけ等に留意して、子どもたちにも接していきたい。
普段交流しない色々な分野の人とグループになり、思いを交流でき有意義だった。
- イ 講師の経験や体験に基づいた具体的な話、演習だったので、大変分かりやすかった。
曖昧な情報、分からないことは確かめる。また、双方向のコミュニケーションの大切さを実感した。
- ウ 大切と言われる「ふりかえり」の秘訣がつかめない。今度はふりかえりに主眼をおいた研修をお願いしたい。

(3) その他(本研修会についての感想, 意見, 要望等)

今日の内容を地域住民対象に行う際には、自分でよく理解しておく必要がある。
日頃自分についてふりかえることをしていないので、今日は自分を見つめ直す良い機会となった。
グループの全員が、積極的に考え、討議しており有意義な研修であった。
もっと多くのワークショップを受けてみたいと思った。
学校等からの参加についても、もっと人数が増えるよう働きかけを工夫する必要がある。
今日の研修内容を自分の職場、業務にも活用していきたい。